

～安定した品質は、「初期茎数」の確保から～

初期茎数確保のポイント

- 適正な田植えの実践(70株/坪植で、植付本数は3～4本/株、植付深さは3cm程度)
- 田んぼの地力や品種に応じた基肥量の設定
- 浅水管理の徹底

1 田植作業のポイント

- (1)強風など天気の悪い日の田植えは避けましょう。
- (2)田植え時の苗箱施薬剤は、規定量を確実に入れましょう。

(3)栽植株数～5月中旬は70株/坪植が基本～

- ・株数変速部が正しく設定してあるかを確認(右写真参照)し、適正な栽植株数を確保しましょう。

近年70株/坪植が定着し、1穂籾数が適正化してきています！
引き続き適正な栽植株数を確保し、適正籾数への誘導を！



70株/坪植

写真1 田植機の株数変速部

(4)植付本数及び深さ～本数は3～4本/株、深さは3cm程度～

- ・田植前に植付爪の状態をチェックし、摩耗している場合は交換しましょう。
- ・株当たりの植付本数は3～4本/株となるよう、かき取り量の調整を行ってください。
- ・植付深さは3cm程度とし、圃場硬さに目盛を調整(田植機のフロート跡がわずかに残る程度)してください。

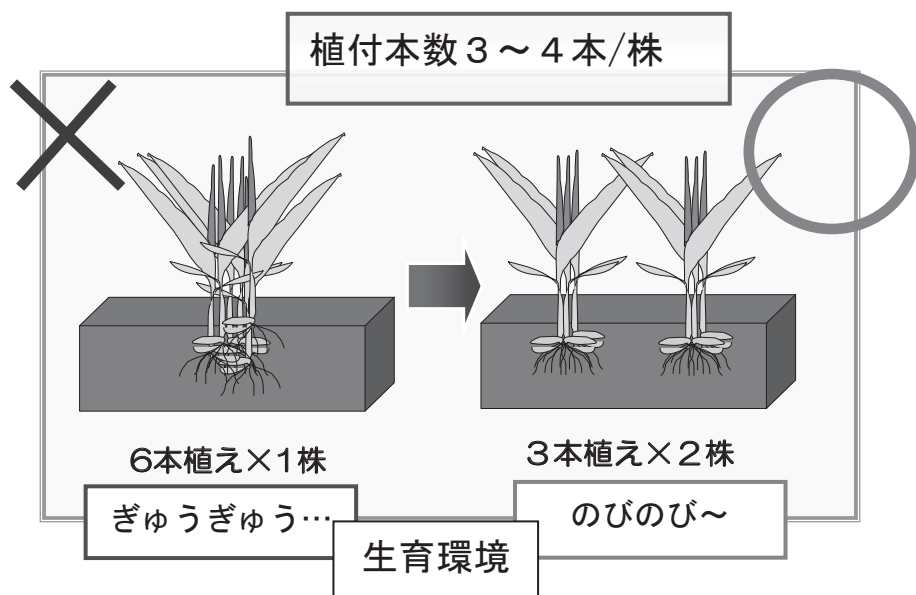


図1 植付本数別の生育環境イメージ図

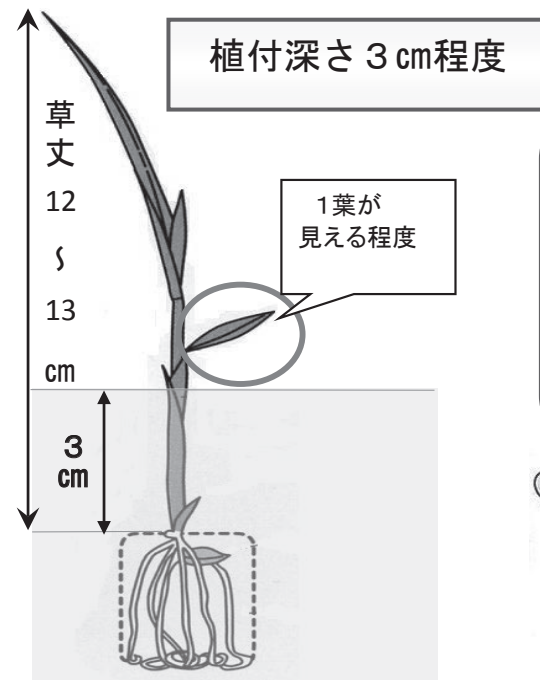
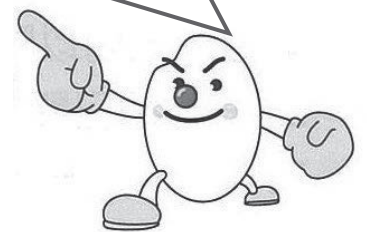


図2 適正な植付深さ

田植機の標準設定では植付本数が多めに、植付深さが深めになりがちです。
必ず確認し、調整してください。



(5)基肥施用～土壌区分に応じて調整～

- ・今年から、基肥一発栽培の標準タイプがJコートにかわります。
- ・田植中は、肥料が落ちていることや、使用した袋数を確認し、予定の規定量を確実に施用しましょう。(肥料の特徴は、冬期懇談会資料34ページを参照)

規定量をしっかり入れるポイント

- ・田植前に施肥ロール、ブラシを点検・清掃する(特に、施肥ロール部の詰まりはコンプレッサー等で除去する)。
- ・肥料袋の裏に記載してある比重を確認し、圃場のスリップ率や田植機の特性を把握して、目盛を調整する。(メーカー別の調節部位は、冬期懇談会資料33ページの写真を参照)

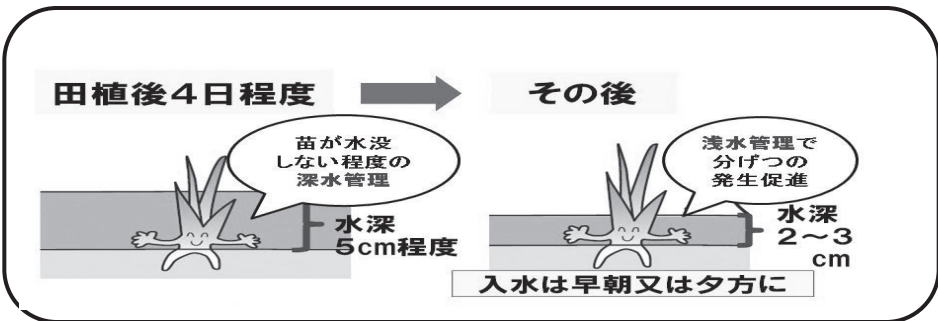
表1 コシヒカリの基肥施用の目安

土壌区分	基肥一発栽培				分施栽培	
	<標準タイプ>		<省カタイプ>		<側条施肥>	
	肥料名	施用量/10a	肥料名	施用量/10a	肥料名	施用量/10a
砂壤土 壤土	Jコートコシヒカリ1号	35kg	けい酸加里入り LPssコシヒカリ1号	45kg	基肥206	32kg
壤土 黒ボク	Jコートコシヒカリ2号	30kg	けい酸加里入り LPssコシヒカリ2号	40kg		25kg
粘質土 (山手地域)		27kg		35kg		23kg

※分施体系の全層施肥の方は、各営農経済センター又は農林振興センターまでご相談ください。

2 田植後の水管理

- 田植後は速やかに入水し、苗が水没しない程度の水深を保ち、苗を風などから保護し活着を早めましょう。
- 活着後、日中は水深2～3cmの浅水管理で田水温を高め、初期分げつの発生を促しましょう。なお、入水は早朝又は夕方の短時間に行い、日中は止水にしましょう。
- 強風時はやや深水管理で苗を保護しましょう。



3 除草剤の散布

- 代かきから田植えまでの日数は、7日以内になるよう作業計画を立てましょう。
- 除草剤を散布する場合は、水口、水尻をしっかりと止め、田面が露出しないよう5cm以上の深水状態で散布しましょう。
- 散布後5日間は湛水状態を保つとともに、散布後7日間は落水しないでください。

《雑草防除体系（除草剤散布は遅れずに!!）》

	田植当日		田植後日数																													
	田植同時	田植直後	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
雑草の発生が多い場合	【初期剤＋一発処理剤】		ピラクロン1キロ粒剤 1kg/10a (田植時～5日まで)					＜一発処理剤の散布＞ 一発処理剤は下段に示したものを、ピラクロン1キロ粒剤、マーシエット1キロ粒剤の散布後10～14日以内で散布する																								
			マーシエット1キロ粒剤 1kg/10a (田植後3～5日まで)																													
雑草の発生が少ない場合	【初期剤＋中期剤】		メテオ1キロ粒剤1kg/10a (田植時～5日まで)																				【一発処理剤のみ】									
																							エンペラー1キロ粒剤 1kg/10a (田植時・田植直後～ノビエ2.5葉期まで)									
																							アピログロウMX1キロ粒剤 1kg/10a (田植後3日～ノビエ2.5葉期まで)									
																							アピログロウMXジャンボ 400g/10a (田植後3日～ノビエ2.5葉期まで)									
																							ガンガン豆つぶ 250g/10a (田植後3日～ノビエ2.5葉期まで)									
																							ウィナー1キロ粒剤51 1kg/10a (田植時・田植直後～ノビエ2.0葉期まで)									
																							ウィナーLジャンボ 500g/10a (田植直後～ノビエ2.0葉期まで)									
																						サラブレッドRXフロアブル 500ml/10a (田植直後～ノビエ2.0葉期まで)										
<p>【田植同時処理剤使用時の注意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○田植時に除草剤を散布する場合は、水を完全に落とさず、田面に水が残っている状態で田植えを行いましょう。 ○軟弱徒長苗の使用や極端な浅植や深植を避け、田植終了後、速やかに入水しましょう。 ○植え穴の戻りや水もちが悪い圃場では、田植同時除草剤の使用は控えましょう。 																																

育苗ハウスの温度管理 ～早朝からの換気で適温維持～

ハウス内の温度が25℃以上にならないよう換気を徹底しましょう。
 田植えの1週間前頃からは夜間も換気し十分に外気にならしましょう。
 ※強風時でも温度が高い場合は、風下のすそを開けて換気しましょう。
 ※温度計は、ハウスごとに苗の高さに設置し、温度管理を徹底しましょう。



春の農作業安全運動実施(3/1～5/31)

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。
 農場内の危険個所を把握・改善し、余裕をもった作業計画を立てるなど、事故を防止する対策を徹底しましょう。
 「ヒヤリ」「ハッと」した経験を、農作業事故の未然防止に役立てましょう！

お知らせ

○消毒済み種籾の無料廃棄処分について
 4月27日(月)～5月29日(金)まで、廃棄ボックスを設置します。必ずネット袋に入れた状態で持ち込みをお願いします。
 ◎設置場所：立山(立山管理センター)、上市(宮川2号倉庫)、滑川(滑川営農経済センター)